

新入生に引き継がれる入会式

千葉県 専修大学 松戸中学校・高等学校

新入生：中学校 156名 / 高校 440名



小林和明理事(中央本部)から新入生代表に会員バッジを授与

全校生が「小さな親切」運動に加入

昭和38年、「小さな親切」運動が誕生したニュースが全国に発信されると、同校では「翌年の東京オリンピックに向け、高校生ができる小さな親切を行おう」との機運が盛り上がりました。ホームルームごとに問題を取り上げ討議を重ねた結果、意見は全校生加入に集約され、生徒の自主的な意思によって、全校生徒の運動加入が満場一致で決定。これを受け、校長ら教職員も生徒と一緒に学校あげて運動に協力しようと加入しました。

翌年、新生徒会長は、新入生と保護者に「親切はだまってやればよいのではないか、と考える人がいるかもしれません。しかし、僕たち生徒会は、高校生のプライドを持ち、社会人の義務である『小さな親切』を行おうではないか、と自発的に運動に参加しました。新入生も加入し、明るい社会をつくりましょう」と呼びかけ、先輩に続き2年目の運動をスタートしました。

それ以来、毎年4月6日の入学式と併せて「小さな親切」運動入会式が行われ、今日まで連綿と心のバトンが引き継がれています。

生徒とともに運動を牽引

「小さな親切」運動と同校には深いご縁があります。「小さな親切」運動が発足した年に専修大学松戸高等学校の理事長になられた森口忠造氏は、のちに運動本部の

理事に就任されました。

お亡くなりになった昭和63年の新春懇親会でのあいさつが最後となりましたが、今でも心に残るものでした。

「私は、日本人の心がこの『小さな親切』運動に共鳴するものを持っているのだと思います。

教育者の一人としてよく考えるのですが、人間と動物の違いは何なのだろうか。それは子どもが親に対して恩を返すことができるということ、これが文化の根源だと思うのです。恩を返すということは人間の本心でありますから、この本心に触れるところに教育の本質があると思っています。

私は「教育改革をどうするか」と大上段に聞かれたら、「教育者が教育の本質をわきまえない」と答えています。これがなければ、教育者が教育を放棄していることになってしまう。この教育不在の時代こそ、『小さな親切』運動を盛り上げていかなければならないと思っています」

また、森口氏は専修大学玉名高等学校（熊本県）の理事長として、生徒たちに「できる親切はみんなでしょう」と報恩と奉仕の精神を説き、玉名高等学校も昭和45年6月に全校生徒と職員が運動に加入し、現在に至っています。

